
介護事業者が期待する介護補助機器



2013年 11月 07日
介護ロボット導入加速化報告会

オリックス・リビング株式会社
森 川 悦 明

オリックス・リビングのご紹介：経営理念

オリックスが創る 新しい介護の常識

- ✓ 尊厳を守る
- ✓ 施設ではなく「住まい」
- ✓ 顧客満足度を追求

新常識 ① 心を支えることが大切です。ひとりひとりの尊厳を守り、心と身体の健康をサポートします。

新常識 ② この場所で、最期まで お暮らしいただけます。看取りまでも一緒に、の想いです。

新常識 ③ 今まで以上に、楽しい暮らしをつくれます。美味しい食事や、賑わいのある日常を実現します。

新常識 ④ 看護師とホームドクター による日々の医療連携。緊急時にも、しっかり対応します。

これらの視点から生まれた
介護される方のために必要な知見が価値

オリックス・リビングのご紹介：運営実績（'13.10現在）

□ 運営する高齢者住宅	1,806室／22ヶ所
■ 有料老人ホーム(住宅型)	1,328室／16ヶ所
■ 有料老人ホーム(介護付)	312室／ 4ヶ所
■ 高齢者向け賃貸住宅	166室／ 2ヶ所
□ 建設・企画中の高齢者住宅	600室／ 4ヶ所



オリックス・リビングのご紹介：運営実績（'13.10現在）



- 有料老人ホームのブランド **"GOOD TIME LIVING"**
人生で最良のときを過ごしていただきたいという願い
- 高齢者向け賃貸住宅のブランド **"PLATESIA"**
優雅なプラチナライフをイメージ
- 入居者数 約1,750名様／延べ約2,950名様
- 職員数 約1,550名

介護リフト導入の経緯

□ 試験導入

- ' 10年 2月 オーストラリア／タスマニアにて、認知症研修
介護職員の過重労働禁止、腰痛発生防止が明確
⇒ 介護リフトが日常的に使用されている
- ' 11年 5月 ノーリフティングに関する職員研修(座学)
- ' 11年 8月 家族への説明会「なぜ介護リフトを使うのか」
- ' 11年10月 介護リフト実技の職員研修
- ' 12年 1月 入居者が介護リフト使用を開始

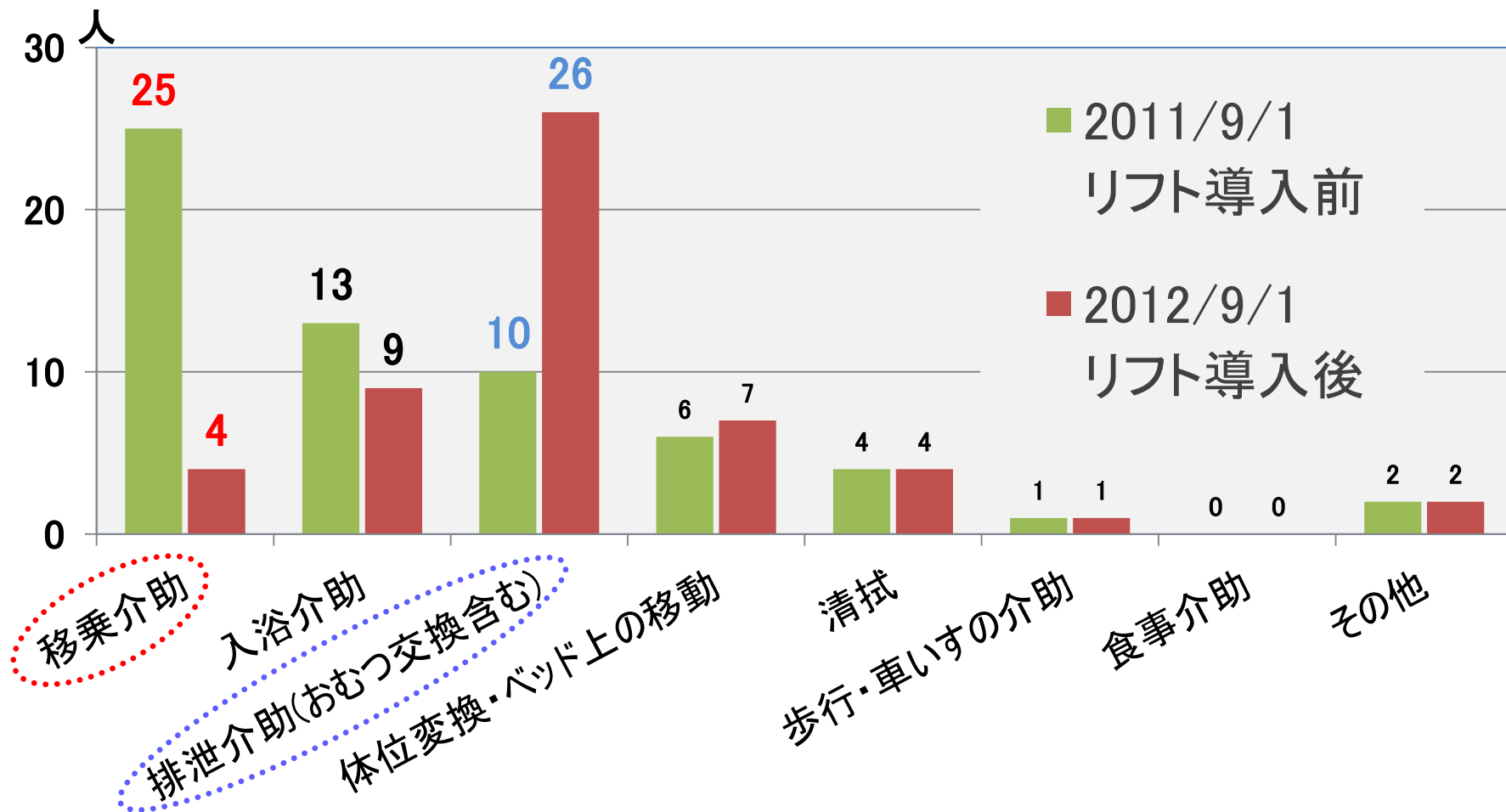
□ 導入の効果

- ①介護職員の身体に、大きな変化(導入前後のアンケート)
- ②入居者の心身にも、大きな変化

介護の質が向上 ⇒ 全拠点に介護リフト導入を決定

介護リフトの効果（介護職員の変化／導入前後）

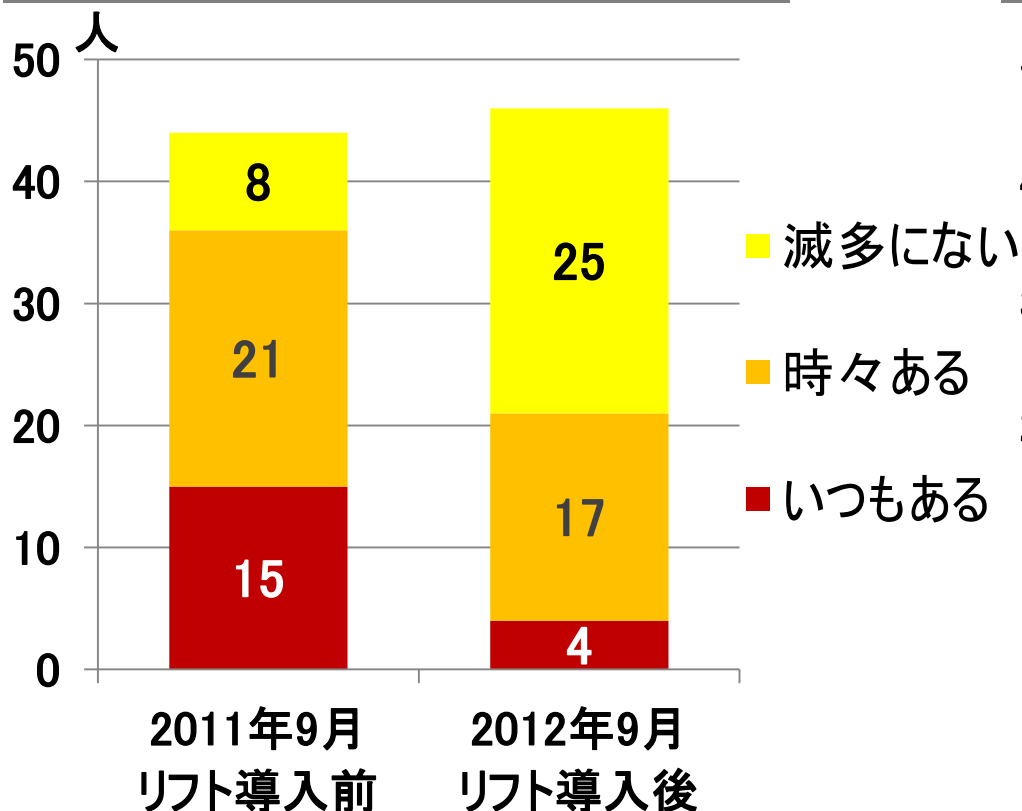
Q1：業務として行なっている作業のうち、最もつらい作業は何ですか？



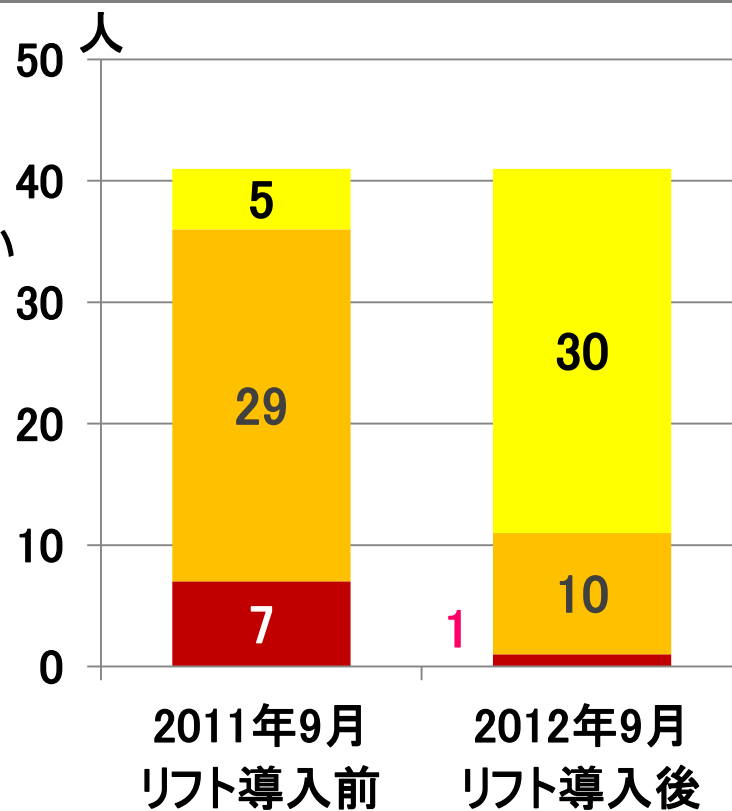
介護リフトの効果（介護職員の変化／導入前後）

Q2：腰背部の1週間の状態について

だるさ・重さがありますか？

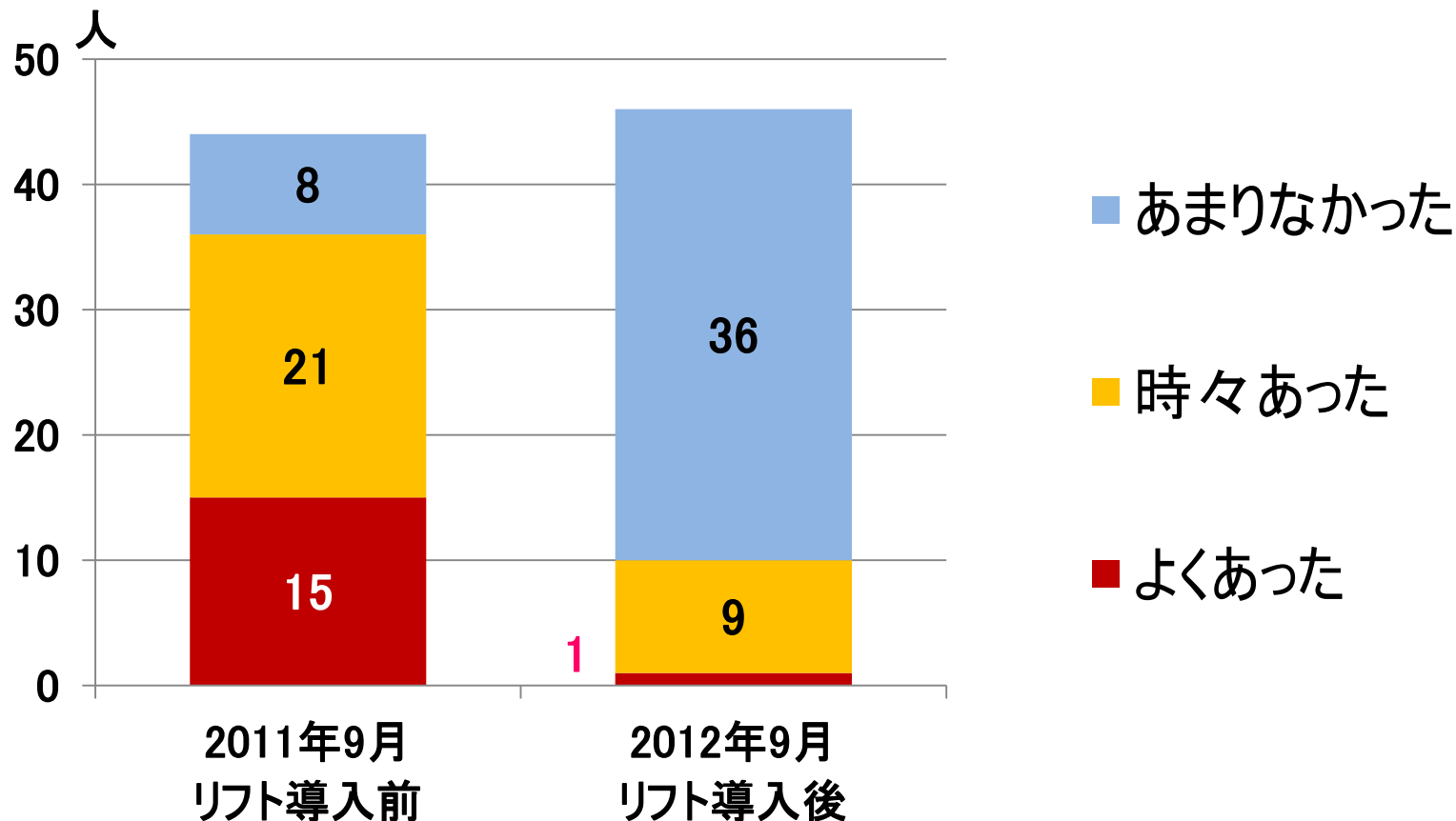


痛みがありますか？



介護リフトの効果（介護職員の変化／導入前後）

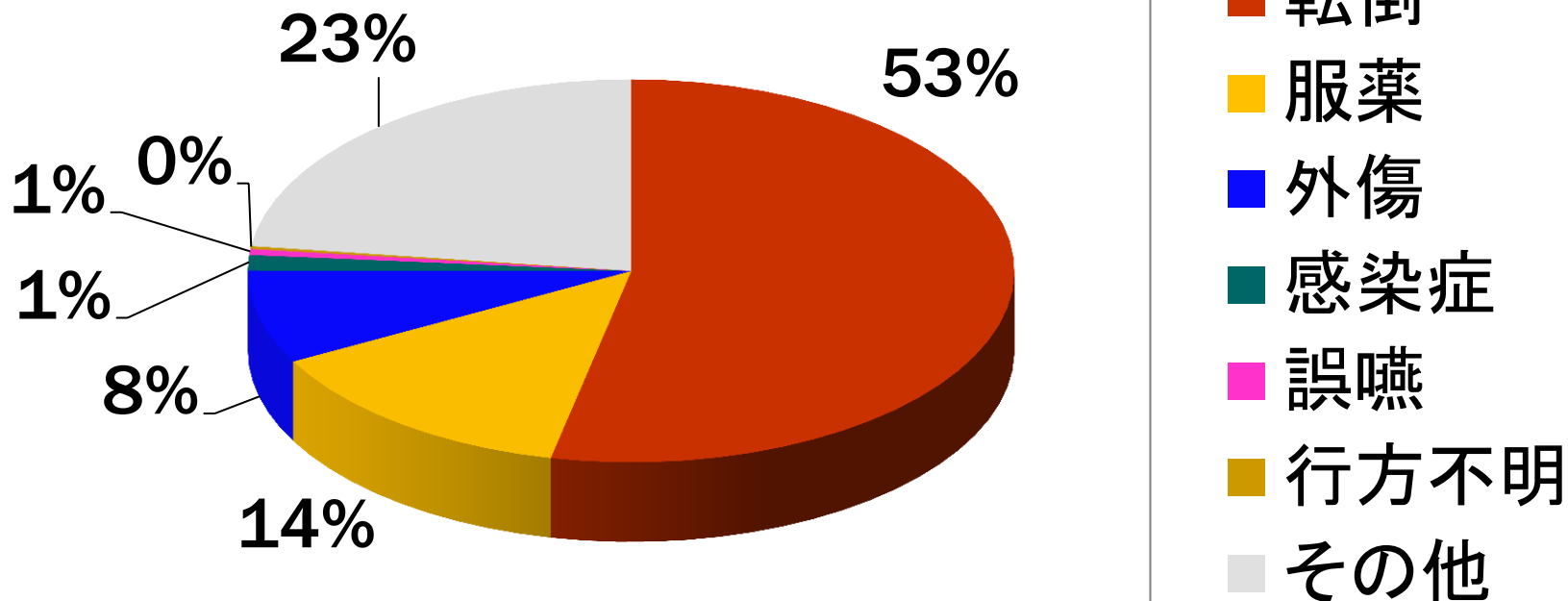
Q3：腰背部の症状のために、仕事をするのがつらい時がありましたか？



補助機器などによって防ぎたい事故

□ 現場で起きている事故の実情

2012年10月～2013年9月に、新規に発生した事故

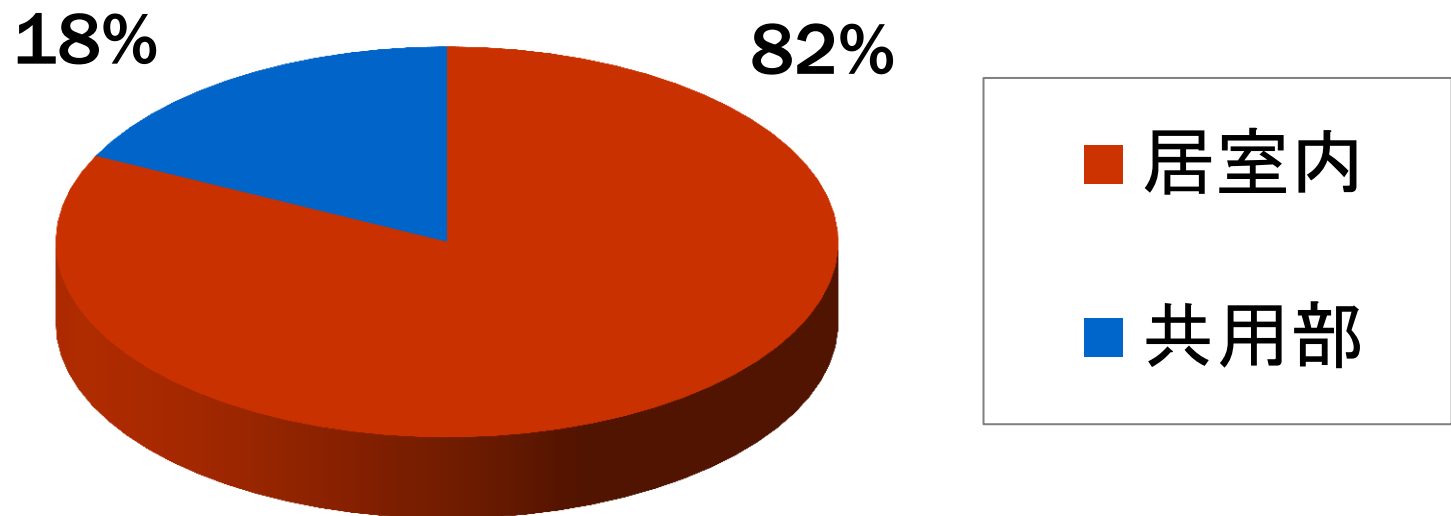


補助機器などによって防ぎたい事故

□ 転倒は何処で起きているか

密室である居室での転倒※が、全事故の中で最多

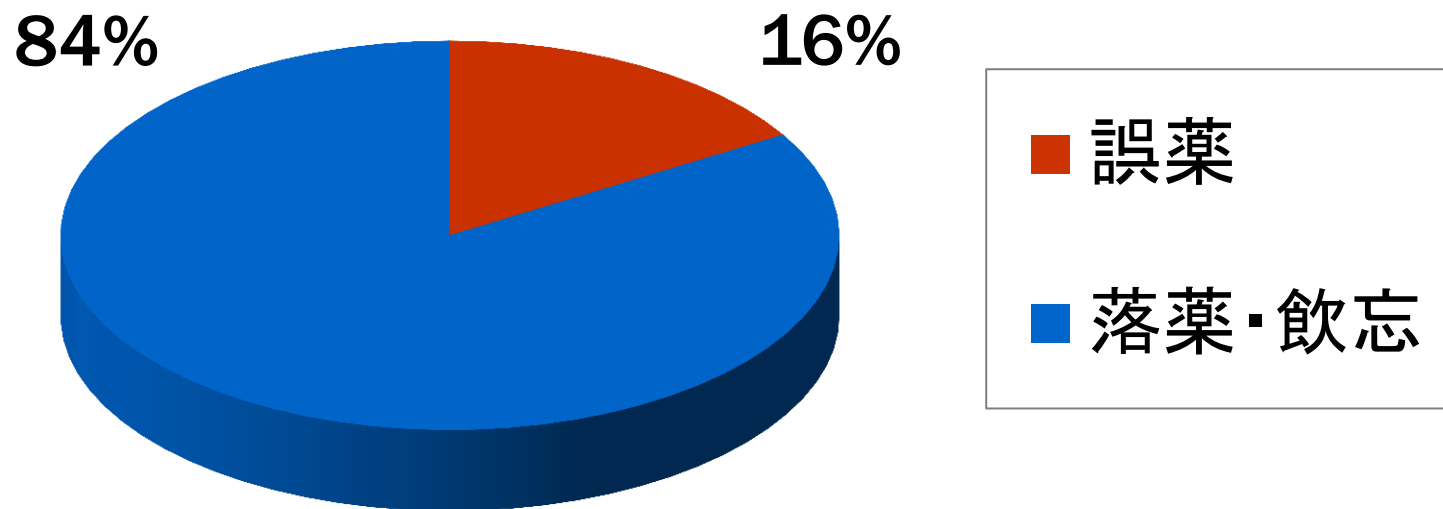
※ 怪我のないものを含む



補助機器などによって防ぎたい事故

□ 事故を起こしてはいけない服薬管理

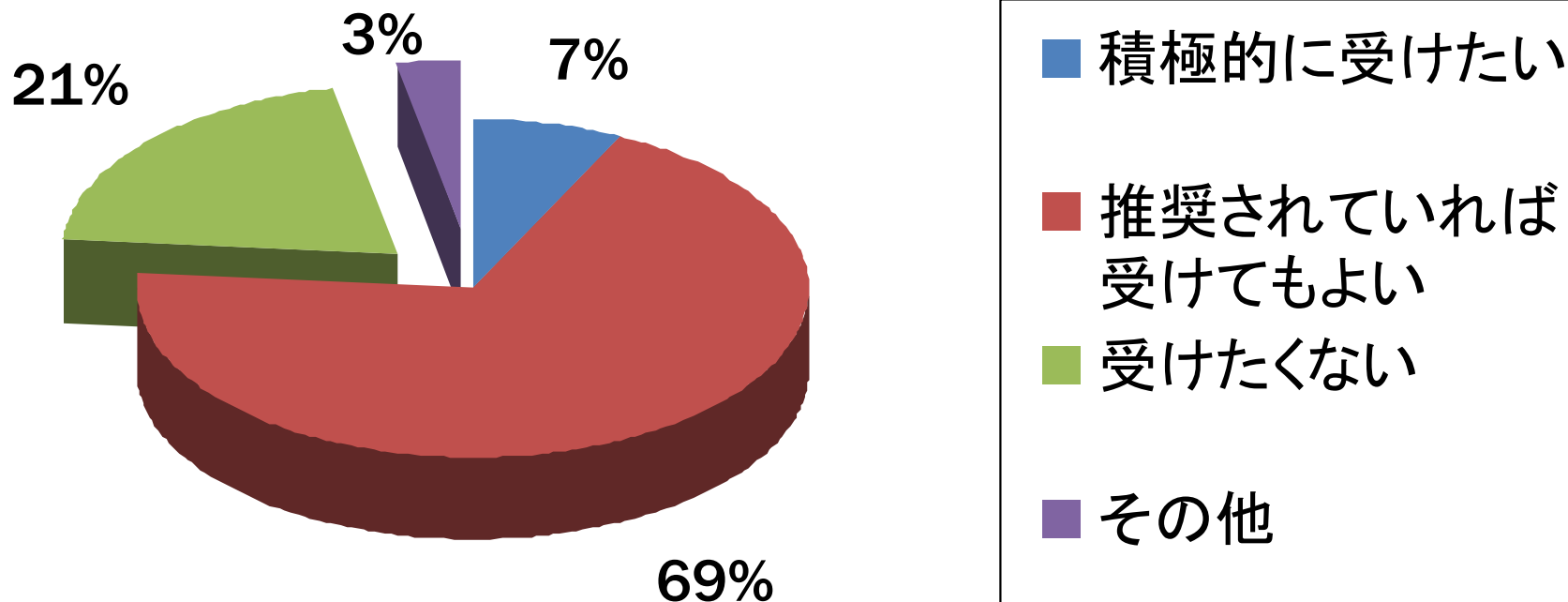
ルールをつくっても、人為的ミス発生 ⇒ 安心・安全な装置を



介護補助ロボットのメリット

- オリックス・リビングが毎年「介護の日」に実施しているテレフォン調査
- 2012年秋実施：回答/40歳以上の男女、総数1,238

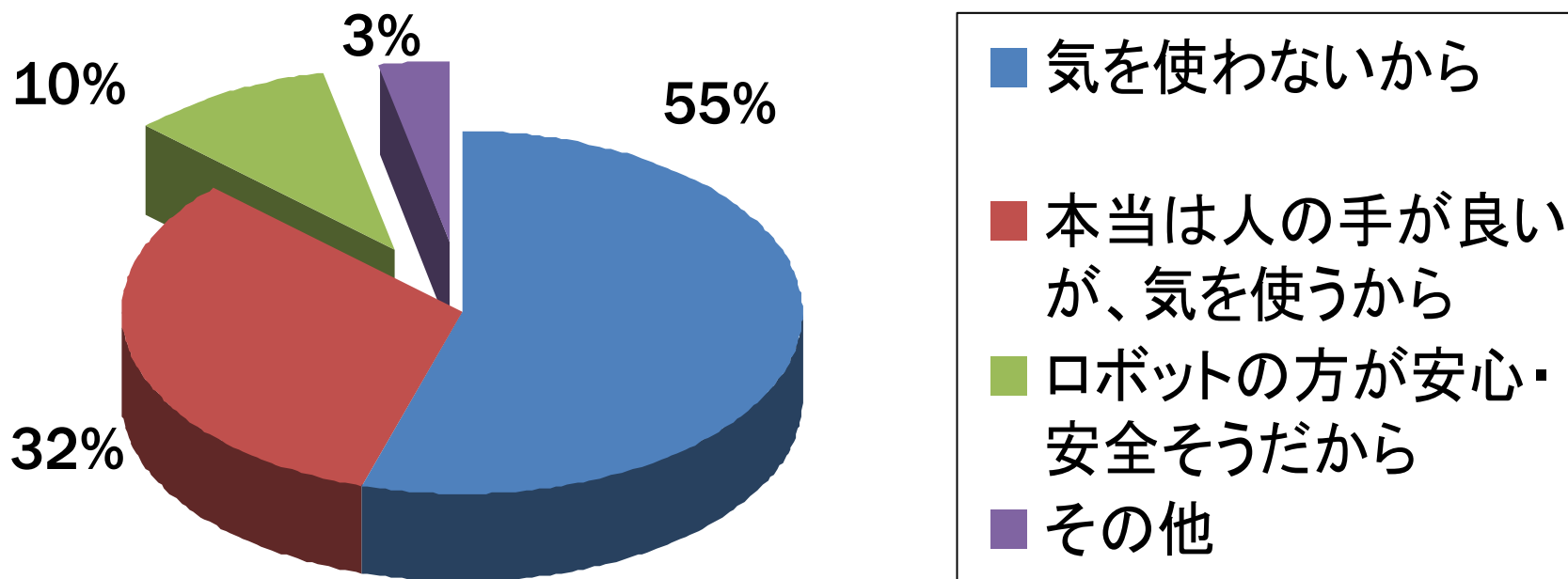
Q1：あなたが今後介護される立場になった場合、介護ロボットによる身体介護を受けたいですか？



介護補助ロボットのメリット

- 介護が必要になっても、ロボットを利用して自立を望む
- 自尊心を保てる環境をつくるのが、介護現場に必要

Q2 : 「積極的に受けたい」「ロボットが推奨されていれば受けてもよい」
の理由は、どのようなことからですか？



どのような介護補助機器が望まれるか

- 入居者にとって：自尊心を保つことができる機器
ex. 自分のペースで、トイレで排泄ができる
介護職員に、心身の負担をかけないで移乗できる
- 介護職員にとって：モチベーションが高まる機器
ex. 精神的に余裕が生まれ、介護の質の向上を認識できる
然るべきときに、必要な情報・指示が受け取れる
- 事業者にとって：経営改善が顕著となる機器
ex. 事故を未然に防ぎ、入居者の安心を高めるもの
投資（経費）を賄える補助金制度（入居者か事業者に）

業務上のムダを省き、効率を高めるだけの機械・機器ではダメ。

導入促進のためには、入居者が自尊心を高めて維持し、
介護職員が入居者とコミュニケーションを深める余裕をつくる。

介護事業者が補助機器を導入するために

介護事業者が、高齢者住宅サービスにおいて認識すべきこと

1. 補助機器は、**介護する人の体の負担を軽くする**

- ① 介護リフトであっても、介護現場には普及されていない
⇒ 特に民間事業者の施設では、1割未満の導入
- ② 厚生労働省が、19年ぶりに「腰痛予防指針」を改正
⇒ 介護の現場に介護リフトなどの導入を推奨

しかし、それ以上に・・・

2. 補助機器は、**介護される方の自尊心のためになる**

- ① 体の負担を軽くする
- ② 心の負担を軽くする
- ③ 行動範囲が広くなり、**自立できる**

介護事業者が補助機器を導入するために

3. 制度事業を越えたサービス業として成長を目指す

- ① 職員の身体を守り、3Kのイメージを払拭
- ② 入居者・利用者の心と身体を守り、介護の質を向上
- ③ 圧倒的な介護職員不足を解決する

4. 安定的とされる介護施設運営事業の収益構造を見直す

- ① 機器導入コストを吸収できる事業
- ② 手間がかかることで増す人件費を補う方法
- ③ 介護保険収益に、過度に依存しない経営方針

- 2025年までに(現在133万人に加え)100万人の介護職が必要
- 介護現場に介護補助機器を導入し、若年者以外も介護に従事